

24【街の散策からの気づき発見】

サクラのたより

会員 K.T.

早春を告げる梅の花に続き、春はサクラの季節になる。早春の梅から桜の季節は花粉症の人には辛い季節でもある。『サクラ』は植物種分類で『ウメ』・『モモ』・『アンズ』の仲間である。2月下旬、公園橋に2本ある早咲きの河津桜が桃色の花を咲かせた。2月に入ってからの寒波の影響だろう、昨年より10日ほど遅いようだ。旧倉松第二調整池に50本ほどある河津桜達は蕾を膨らませている。大落古利根川沿いの桜並木は、まだ硬く蕾を閉じ、「♪春よ来い」と暖かい春の季節を待っている。3月中旬から下旬には、春日部市の川沿いは桜色に染まり、春が来たことを実感する華やいだ風景になる。

春日部市のホームページでは、市の桜の名所を12ヶ所、紹介している。

- 1)内牧公園 2)古隅田川沿い 3)八幡公園
- 4)会之堀川沿い・一ノ割上根公園 5)一ノ割公園
- 6)新町橋から藤塚橋までの「古利根きらめき通り」
- 7)川久保公園 8)牛島古川公園・藤塚三本木公園
- 9)宝珠花江戸川堤 10)庄内領悪水路沿い
- 11)庄和総合公園 12)東中野ふれあい公園

桜に限らないが木の樹齢は、年輪が1年を刻んでいる。樹齢は年輪を数えれば樹齢ははっきりするが、切り倒して確認するわけにはいかない。見た目で推測する場合は、品種や植えられた環境によって違いはあるも、樹齢50年ぐらいで、胸高付近で幹の直径が約50cm～80cm、高さは15mぐらいになる、ということを参照にすると、大雑把な樹齢を推測することはできる。また、昭和の後半に盛んに植樹されたことから、市の桜の名所での太い幹の桜は概ね50年以上の樹齢を経ていると思われる。

余談ながら、桜の開花情報は、「ソメイヨシノ」の品種で各地域に、その地区の開花観測につかう「標準木」を決めており、その開花情報で判断している。東京都は靖国神社の境内にある5～6個の桜の蕾が開いたら開花宣言をする。都道府県毎に「標準木」があり、全国で58本ある、という。「ソメイヨシノ」が選ばれているのは、この品種が江戸時代に「接ぎ木」の技術で大量生産され、すべての木が遺伝子的に同じクローン桜で全国に広まつたことによるらしい。原木の由来は、自然交配か、人工交配は不明ながら、DNA 解析によると、552万年前に異なる「種」に分かれた「エドヒガシ」と「オオシマザクラ」が親木という。百数十年前に「エドヒガシの雌しべ」と「オオシマザクラの花粉」が受粉し、交雑して生まれたのが、「ソメイヨシノ」といわれている。

名前の由来は江戸時代の末期、江戸郊外の染井村(現・豊島区駒込)が発祥の地、染井村の植木屋が奈良の吉野山の山桜と区別して地名の冠した「ソメイヨシノ」と呼んだ、という。「ソメイヨシノ」は接ぎ木で増やす植栽技術で、大量に生産でき、接ぎ木苗は成長が早く、大きな花をつけることから全国各地へ広がっていった。日本には自生する野生種の9種を基本に変種や園芸品種を数えると、200以上の種があるといわれている。現在、私たちが観賞する桜は、ほとんどが「ソメイヨシノ」の種である。百数十年前に縁があつて交雑で生まれた1本の桜から江戸時代の植栽技術でクローン桜が増えたものだ。桜は悠久の歴史を重ねながら、今日も春を華やかに彩っている。温暖化で開花の時期は少しずつ早くなっているので、「4月、春爛漫の『さくら』と、いっしょに入学式の風物詩は、いすれば昔のことになってしまうのだろう」と桜の開花をまちつつ思う。



公園橋



旧倉松第二調整池

春日部市・桜の名所
(出典:春日部市ホームページ)

